

氏名 大井田 二 郎

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2629 号

学位授与の日付 平成 5 年 9 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 担癌患者末梢血リンパ球 NK 活性の低下機序の検討

論文審査委員 教授 中山 睿一 教授 木村 郁郎 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

消化器癌患者45例，健康人25例の末梢血リンパ球 NK 活性に及ぼす，ノイラミニダーゼ (VCN) の影響を検討した。

VCN 処理により健康人 NK 活性は低下する傾向を示したが，担癌者では増加する傾向を認めた。

リンパ球 VCN 処理による担癌患者 NK 活性の増強効果は M-Hera, K-562 MKN-28 P-4788のいずれを標的とした場合にも認められた。

この VCN 処理による NK 活性の変動は単球の存在に影響されず，低親和性ヒツジ赤血球リセプターの有無により分画された T 細胞 (E+)，non-T 細胞 (E-) を VCN で処理すると NK 活性の増強は T 細胞分画にのみ認められた。

また，VCN 処理は健康人リンパ球の NK 活性に対する担癌患者末梢血中の suppressor cell の作用，あるいは担癌患者血清の抑制作用を解除し得なかった。

以上より VCN は NK 細胞の活性に対する担癌状態に特有の抑制系の解除に働くのではなく，おそらくは low-affinity E-receptor positive 分画に含まれている未成熟 NK 細胞に作用して成熟型の NK 細胞へと分化を促進させるものと推定される。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究では，担癌患者末梢血 NK 活性の低下機序を臨床免疫学的に検討したものである。担癌状態での NK 活性の低下は，ノイラミニターゼ処理により増強することから，可逆性であることを明らかにした。この知見は，NK 活性抑制の機構について重要な示唆を与え

るもので、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。